

第4回 野々市市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

【日 時】 令和 4 年 7 月 7 日 (木) 午後 2 時～午後 3 時 30 分

【場 所】 野々市市交遊舎 ホール

【出席委員】 (○印：委員長)

○ 金沢工業大学	教 授	蜂谷 俊雄
石川県立大学	教 授	一恩 英二
野々市市農業委員会	会 長	佛田 利弘
野々市市商工会	副 会 長	北村 恒
野々市市連合町内会	会 長	藤田 雅顯
石川県土木部都市計画課 課長代理	課 参 事	田中 進一郎
野々市市	副 市 長	山口 良

【事 務 局】

野々市市土木部	部 長	中藪 孝志
野々市市土木部都市計画課	課 長	石畝 朋宏
野々市市土木部都市計画課	課長補佐	西村 裕之
野々市市土木部都市計画課	課長補佐	本吉 信弥
野々市市土木部都市計画課	係 長	前川 和寛
野々市市土木部都市計画課	主 査	山下 泰士
野々市市土木部都市計画課	主 査	船山 晃司

株式会社国土開発センター 見附、中宮

敬称略

(1) 第3回委員会での意見対応について

- ・一人当たり公園緑地等面積の“等”には何が含まれているか。
⇒公共施設の緑地面積や民間施設（寺社）の面積が含まれている。農地の面積は含まれていない。
(事務局回答)
- ・昨今では肥料の物価高騰の問題など、食料安全保障が大きな課題となっている。生活者と農地の関係について議論が必要である。また、農地の位置づけについて、防災・気象変動への対応など、多方面からの検討が必要である。
- ・公園の集約化については、市民の徒歩圏も考慮して検討が必要である。
- ・食糧危機への対応として、海外ではビルの跡地を畑にしている事例がある。日本においても食糧危機の問題は例外ではない。
⇒都市農地の具体的な利活用については、豪雨・豪雪時への利用など、今後実証実験を進めながら方向性を検討したい。(事務局回答)
⇒公園の集約化については、具体的な施設の検討を行っていないが、今後人口減少に伴う居住地の変化や徒歩圏も考慮しながら検討を進めたい。(事務局回答)

(2) 緑の基本計画について

- ・特に意見なし。

(3) 都市計画マスタープランについて

- ・南部地域の集落環境の維持、活用の方針については、具体的なエリアを図に示してほしい。
- ・DXやIotなどの情報化社会やバーチャル社会について、都市計画マスタープランとの関係性や位置付けを言及してはどうか。
- ・南部地域では公共交通の満足度が他地域よりも低い。JR野々市駅の駐車場が少ないため、交遊舎を子ども園や公民館、立体駐車場など複合施設として利用するのはどうか。
- ・北陸鉄道石川線について、南側の四十万駅は金沢市内であるが、野々市市民にも利用されており、評価をどうするか検討が必要である。
- ・陳腐化している地域において、鉄道を含めた再開発をどうするか考えていく必要がある。
- ・バーチャルやインフラの観点では、まずは通信をどうするか検討が必要である。野々市市内はWi-Fiのフリーアクセスできるポイントがあまりない。また、市内にはRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の基地局がない。
⇒DXの観点については、市庁内でDXを推進するグループが発足された。今後、まちづくりの観点でどのようなことが取り組めるか検討していく。(事務局回答)
⇒交遊舎については、個別施設計画において今後、利活用のあり方を検討していく。(事務局回答)
⇒今年の4月から都市整備課において交通政策を担当しており、今後、北陸鉄道石川線の活用方策について検討を進めていきたい。(事務局回答)
- ・DXやデジタル技術の活用については、地方自治体や行政機関が一番遅れている。デジタル技術を最大限に活かせる仕組みづくりや人材の育成が大切である。

- ・都市計画マスタープランの検討において、国や県、近隣市町や、庁内横断的に議論する場はあるか。
⇒近隣市町とは、意見交換という形で担当課と打ち合わせを行っている。石川県についてはこの委員会にも参加してもらい意見を求めている。庁内については、策定段階から連携・調整を行いながら進めている。(事務局回答)
- ・北陸鉄道石川線については、石川県として広域的な都市計画の観点から重要な社会インフラである。野々市市、金沢市、白山市と調整しながら公共交通の活性化に取り組んでほしい。
- ・この件については、石川中央都市圏において議論を進めており、今年度内に方向性を出すこととなっている。
- ・防災的な観点では、来年度以降の立地適正化計画の防災指針策定において、施設配置や居住地の適正化など具体的な取り組みを検討してはどうか。
⇒石川中央都市圏において、北陸鉄道石川線やバス等の公共交通の在り方について、近隣市町と調整しながら検討していきたい。(事務局回答)
- ・他都市の都市計画マスタープランの委員も務めているが、中山間地域の限界集落が深刻な問題となっている。そこでは、電車の駅やバス停が重要な位置づけとなっている。野々市市は過疎地というイメージがなく、あまり駅に機能を集中しようという意識がないのではと感じる。
⇒石川中央都市圏において、北陸鉄道石川線やバス等の公共交通の在り方について、近隣市町と調整しながら検討していきたい。(事務局回答)
- ・南部地域の集落は、ほとんどが限界集落となっている。高齢者の車の免許返納により、車がないと生活が不自由な状態となっており、どう対策するか検討が必要である。

以上